

順位	氏名（議席）	発言の要旨
19	小池 義治（15）	<p>1. 学校の宿題は必要か</p> <p>本市の不登校の小中学生数は、直近6年間で約3倍に増加し、令和5年度には869人となっている。これは、従来型の学校教育が時代と合わなくなり、制度疲労を起こしていることを示唆していると思う。今こそ、教育の大転換が必要である。</p> <p>従来型の教育の問題点の一つとして、学校の宿題が挙げられる。宿題は、子供の自由な時間や家族との時間、自分を取り戻すための休息の時間を奪い、学習意欲を低下させるだけでなく、保護者や教員の負担を増大させている。また、宿題が重視する漢字や計算などの認知能力（テストで数値化できる能力）は、AIの発展によりその重要性が相対的に低下しており、現代社会でより求められる創造性や協調性といった非認知能力は、自由な遊び（特に外遊び）を通して最も育まれる。宿題は、子供の健やかな成長を妨げている可能性がある。</p> <p>学校教育は、学校の時間内で完結させ、子供たちが自由な遊びや家庭教育に充てる時間を増やすべきで、そのためには、広く保護者の理解も得ながら、宿題の在り方を根本から見直す必要があると考え、以下質問する。</p> <p>(1) 現在の宿題の出し方や量については、教員によってばらつきがあるが、現状をどのように捉えているか。</p> <p>(2) 宿題は極力減らすべきと考えるが、いかがか。</p> <p>2. H S C（とても繊細な子供）の理解と対応について</p> <p>H S C（Highly Sensitive Child）とは、生まれつき感受性が高く、周囲の刺激に敏感な子供のことで、大人で同じような気質を持つ人は、H S P（Highly Sensitive Person）と呼ばれる。H S P／H S Cは、全人口の15%から20%を占め、男女差はほとんどないとされる。H S Cの子供は、以下の特徴を持つことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五感への過敏さ：まぶしい光、うるさい音、強い匂いなど、五感への刺激に敏感で、不快に感じる場合がある。 ・共感性の高さ：周りの人の気持ちや状況に深く共感し、暴力的な映像や言葉に強いショックを受けることがある。 ・新しい環境への適応の遅さ：初めての場所や人に対して緊張しやすく、新しい環境に慣れるまで時間がかかる場合がある。 ・ストレスへの感受性：学校生活や人間関係の中で様々なストレスを感じやすく、不登校につながることもある。 <p>H S Cは生まれつきの気質であって、病気や障害ではないので、治療や矯正が必要なわけではない。しかし、H S Cの特性を理解し、適切な環境やサポートを提供することが、子供たちの健やかな成長に必要と考え、以下質問する。</p> <p>(1) H S Cを教育現場ではどのように理解しているか。</p> <p>(2) H S Cにどのような対応ができるか。</p> <p>3. クラウドファンディング型ふるさと納税の拡充と「紙のまち富士市」のブランド化について</p> <p>本市のふるさと納税寄付金額は、令和3年度9億円余、令和4年度17億円余、令和5年度43億円余と急増している。しかし、近隣自治体の令和5年度寄付金額は、山梨県富士吉田市88億円余、富士宮市63億円余、沼津市44億円</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
19	小池 義治（15）	<p>余と、本市を上回っており、寄付金額にはさらなる増加の余地があると考え</p> <p>る。</p> <p>寄付額の増加について、平成20年6月定例会（2008年6月25日）の一般質問で当時市議会議員だった小長井市長は、「寄附の募集方法であります、用途を具体的に限定したほうがインパクトがあり、寄附を募りやすいのではないのでしょうか。富士山麓の環境保全、例えばブナ林創造事業、不法投棄されたごみの撤去事業など、富士市独自の寄附メニューを検討すべきではないかと考えます」と述べているが、同感である。</p> <p>今後、そうしたクラウドファンディング型（用途を明確にした上での寄附募集）の拡大が必要であり、また返礼品についても、体験型チケットなど紙製品以外の多様化や、本市と同じく返礼品で紙製品を提供する自治体との差別化を図るための「紙のまち富士市」のブランド化が必要と考え、以下質問する。</p> <p>(1) 千葉県銚子市では平成26年度に銚子電気鉄道応援基金をつくり、ふるさと納税寄付金を募っており、令和5年度に9600万円余、累計では4億3000万円余を集めている。岳南電車においても、同様の施策はできないか。</p> <p>(2) 本市では、2017年にトイレトレーラー導入においてクラウドファンディングを活用した実績がある。市独自で先駆的な各種施策にクラウドファンディング型ふるさと納税を積極的に取り入れてはどうか。</p> <p>(3) 市民が、市外の人々に富士市へのふるさと納税を呼びかける際に活用できるような、魅力的なパンフレットを作成してはどうか。</p> <p>(4) 本市のふるさと納税返礼品の主力である紙製品の魅力向上のため、「今治市＝タオル」、「鯖江市＝メガネ」というように、「富士市＝紙製品」という地域ブランド化を、ふるさと納税寄付金の一部を活用し、積極的に推進してはどうか。</p>